いのち動的平衡館

I am You

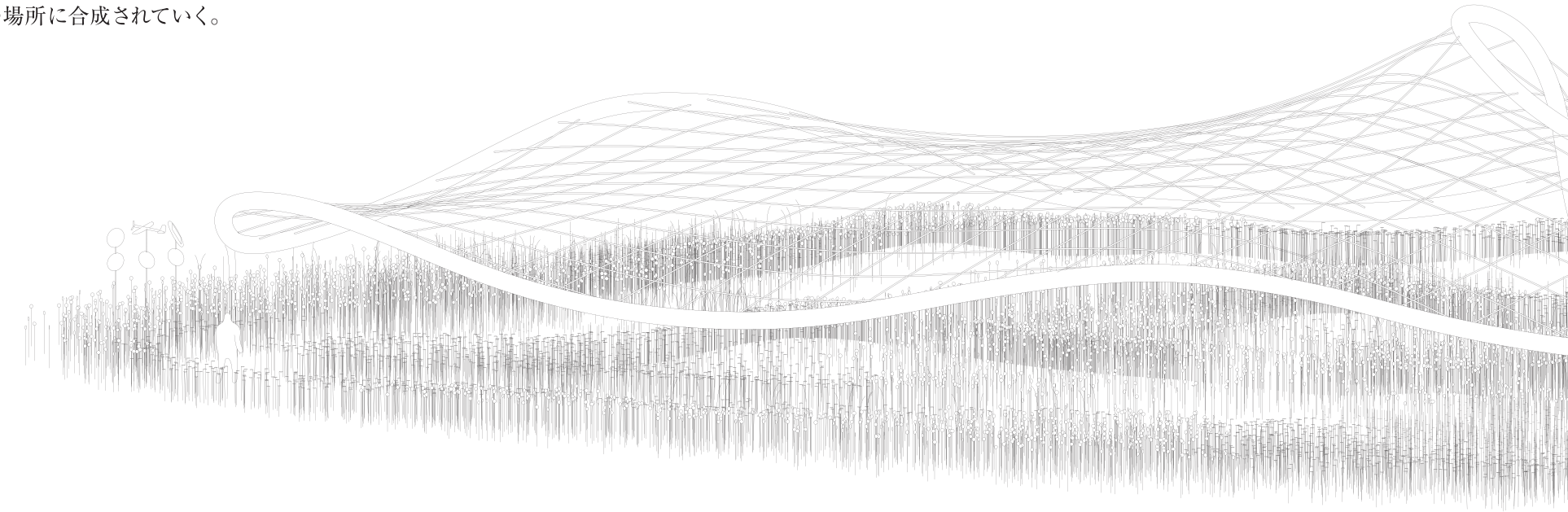
溶けていくわたし

生物学者のレンズを通して世界を眺めると、38億年に渡って繰り返されてきたいのちの調和の姿が見えてくる。
あらゆる生命は、他者に手渡し、他者から手渡される絶え間ない交換の流れ、利他共生によって成り立ってきた。
「I am You」は、今ここにいるわたしと世界中の自然物や人々との目に見えないつながりや相補性のなかに、
実は自分自身も混じり合っていることを体験できるパビリオン。わたしとあなた、利己と利他が溶けていく。
意識の根底をやさしく揺さぶり、見えている景色を静かに変える生命哲学を、わたしたちに。

福岡 伸一

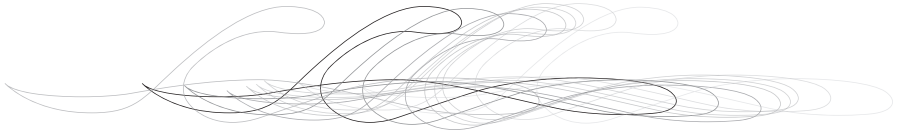
よどみの建築

地上からやわらかに浮き上がっている一本のリング。
多細胞生物の初期発生にも似たその造形は、
つねに環境からの力を取り込みながら力を逃しつづけ、
おおらかなバランスを保っている。
それは自然の流れの中で一瞬だけ立ち現れる
力の均衡状態を生け捕りにした「よどみの建築」。
半年後、あらゆる生命がそうであるように、
よどみの建築は静かに分解され、
他の場所に合成されていく。

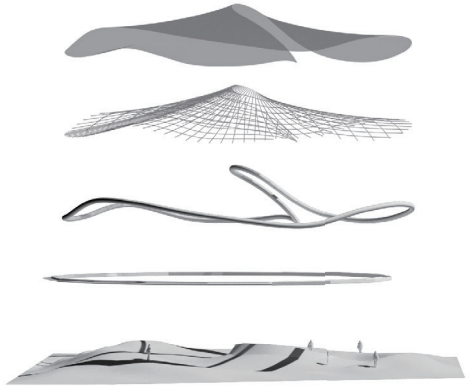


バランスのシステム

重力や風などの外力、光や熱などの環境条件に対して、
まるで生命体のようにつねに形を変え、
その流れに呼応しながらバランスして存在する。

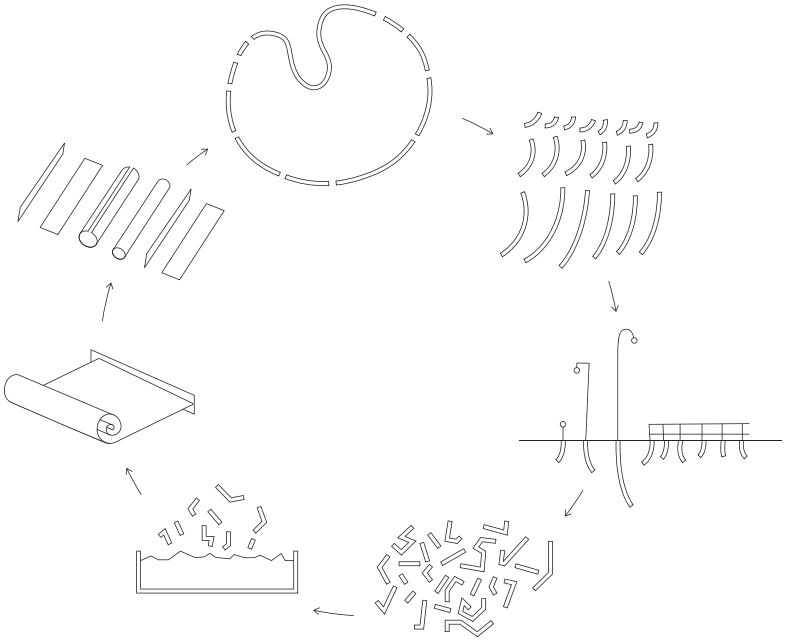


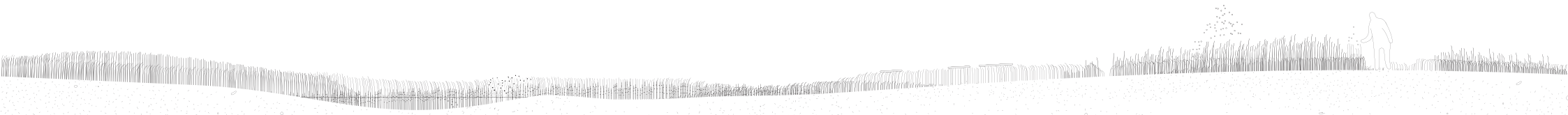
屋根リング、基礎リング、ケーブルネットの
3要素が互いに関係し合い、
バランス状態を生み出すことで、
軽量な構造体が成立する。
また、風をいなし、拡散光を
取り入れることによって、
エネルギーの流れに
逆らわない自然と呼応する
環境を作り出す。



分解・合成のシステム

生命が分解と合成の流れの一部であるように、
建築も会期を終えると形を変えて生まれ変わる。
曲がった鋼管リングは、解体後、パブリックファニチャーの
鋼管杭として生まれ変わる。複雑な加工管でのリユースが
実証されることで、膨大な既存鋼材ストックのリユースにつながる。

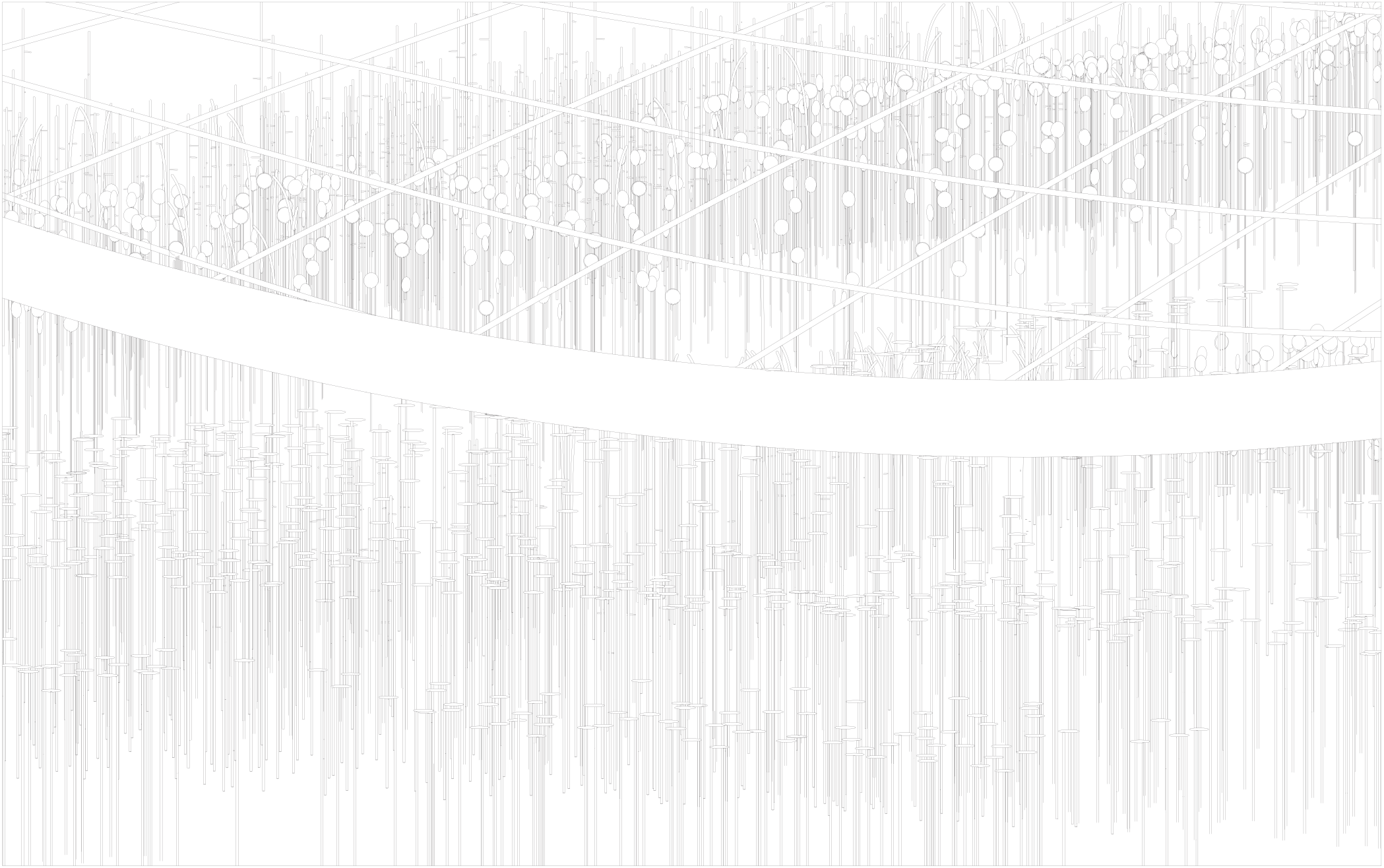




どこかで見たような
どこにもない風景

暮らしや記憶の中で見たことのあるような、
しかしどこにもない風景をつくる。
それは反応・交換・循環の群がりであり、
相補・利他の草むら。

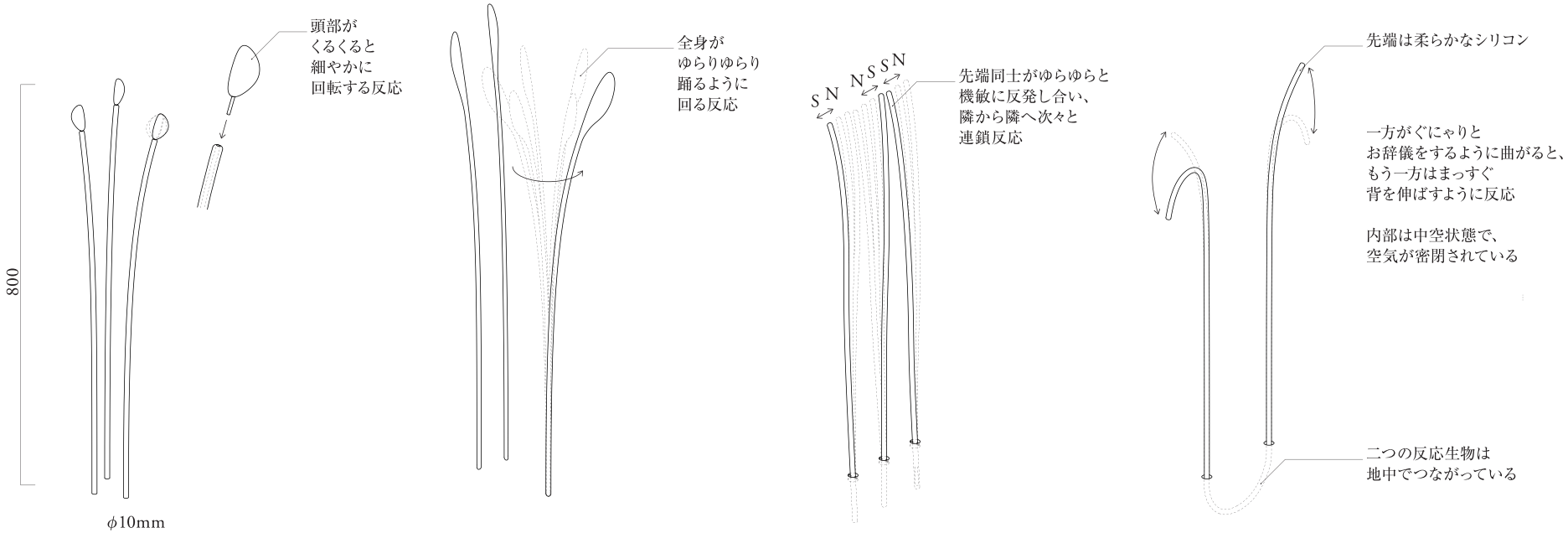
身近さを感じられる場所で得た気づきは
普段の暮らしに自然とつながっていく。
そして、群れの中に身を置く体験により、
自分が大きな循環の一部でしかない
という実感が引き出される。



反応生物

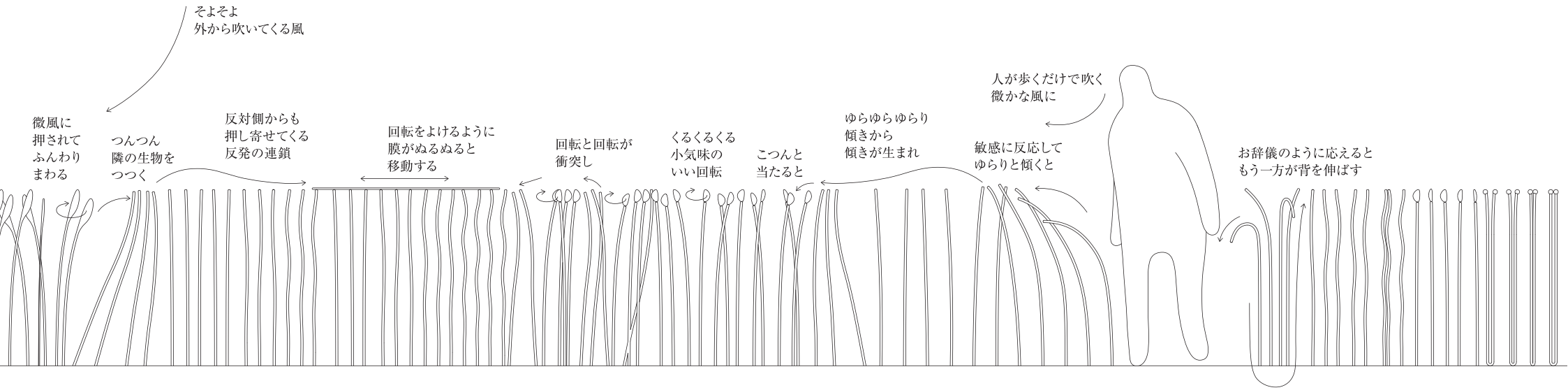
パビリオンでは、他者からの何らかの影響や関わりによって作用する「反応生物」を展示する。
反応生物は、風や光などの自然からの外力に加え、来場者の歩行から発生する
微弱な風や振動にも敏感に反応し、さらに反応生物同士の振る舞いにも反応し合う。

［反応生物の例］



反応の連鎖

ひとつの反応生物が動くと周囲の反応生物も次々と連鎖し、反応が拡張していく。
ひとつひとつの振る舞いは微かなものだが、反応が反応を呼び合い、
不可逆な動きが複雑に絡み合っていくことで、全体が巨大な生命体のように蠢き、
来場者自身も生命と生命の繊細で大きなつながりの中の一部であることを直感する。



坂本龍一

MR（ミクスト・リアリティ）コンサート

[ねらい]

生命をテーマとしたコンサートやライブ演出を行い、
すべてが一つのいのちのように一体となった空間に浸ることで、
I am Youのコンセプトを体感する。

[概要]

生命をテーマとした坂本龍一プロデュースのコンサートを行う。
現実世界の形状にホログラムの演出を重ね合わせるMR（Mixed Reality）
を利用。本人がまるでそこにいるかのような映像演出と、その他の照明効果を
掛け合わせ、生き物たちと演奏が互いに呼応し合うような
心地の良い一体感を醸成する。

[開催場所]

大催事場

photo©zakkubalan©2022 Kab Inc.

photo© Riko Okaniwa

展示デザイン

三澤 遥

日本デザインセンター三澤デザイン研究室室長。

[事例]

waterscape | photo© Masayuki Hayashi

Doshi: The Paper Wants to Move | photo© Masayuki Hayashi

建築

橋本尚樹

橋本尚樹建築設計事務所主宰。

[事例]

Tamatsukuri Kindergarten | photo© Masao Nishikawa

Tsuruga Factory | photo© Masao Nishikawa